

[研究論文]

日本の若年層におけるキャッシュレス決済意向

矢野 尚幸

〈要 約〉

日本におけるキャッシュレス決済は増えつつあるが、諸外国に比べると低い水準である。その理由の1つとして、デジタルネイティブであるはずの若年層によるキャッシュレス決済が進んでいないことが挙げられる。現金派の若年層にヒアリングしたところ、キャッシュレス決済の利便性は把握しているものの、現金の方が支出の管理をしやすいメリットと、キャッシュレスの使いすぎを懸念していることが伺えた。その一方で、「キャッシュレス決済の口座にお金があれば使う」という消極的な利用姿勢も見られた。アンケート調査でも、アルバイト代のうち、一定の金額をデジタル払いでの支払を許容する現金派ユーザーも見られたことから、自ら振り込まなくともデジタル払いの口座にお金が振り込まれる施策を強化することが考えられる

キーワード：キャッシュレス決済、デビットカード、コード決済、友人間の送金、デジタル払い

1. はじめに

小売業効率化の手段の1つにキャッシュレス決済が挙げられるが、店舗に対する遠慮、支払を実感したい要望などから、日本国内では諸外国ほど進んでいない。中でも、本来はデジタルネイティブである若年層の利用が必ずしも進んでいない。そのため、本論文では日本の若年層のキャッシュレス決済に対する意向を明らかにする。具体的には、決済に現金を主に利用する層の理由やキャッシュレス決済に対する考え、逆にキャッシュレスを主に利用する層の理由や現金決済に対する考えを比較するためのヒアリングを実施する。さらに、このヒアリング結果を基に、現金決済を好む若年層がキャッシュレス決済を行うにはどのような方法が考えられるかを、アンケート調査により明らかにする。

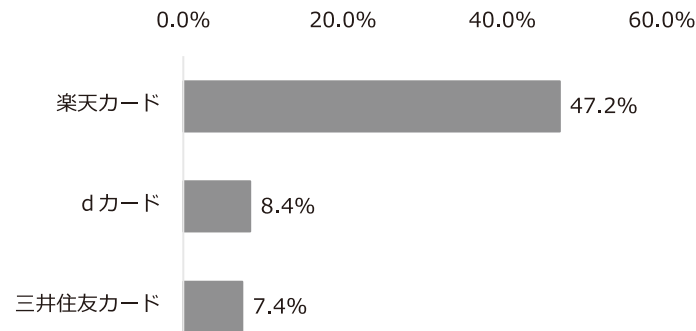
2. キャッシュレスの定義

経済産業省（2022）によると、キャッシュレスとは現金を物理的な紙幣・硬貨と捉え、物理的な紙幣・硬貨を使わずに行う決済手段のことを指す。簡単にいうと、モノやサービスを購入した際に、現金以外で支払うことである（元木, 2019）。現在のキャッシュレス手段は、支払手法の違いに応じて口座振替／自動引落、カード／電子マネー、スマホ決済の3つに分類できる。店頭で主に用いられるキャッシュレス決済手段としては、以下のものが挙げられる。

① クレジットカード

国際ブランドとしては、Visa、Master、JCBなどが挙げられる。それ以外では、三井住友カード、三菱UFJカードなど銀行系、JALカード、ANAカードなどの運輸系、au PAYカード、dカードなどの通信系、楽天カード、イオンカードなどの小売系から発行されている。図表1は、メインカードとして利用しているクレジットカードの割合である（Visaなどの国際ブランドを除く）。楽天カードが47.2%と最も高く、次いでdカード、三井住友カードの順となっている¹⁾。

図表1 メインカードとして利用しているクレジットカードの
国際ブランド（n=500）



出所：株式会社S&T PRTIMES¹⁾

② デビットカード

デビットカードは、現金とクレジットカードの中間的な特徴を持ったカードのことを指す。デビットカードは銀行口座と紐付けられ、代金は支払と同時に銀行口座から引き落としされる。デビットカードで使われる主要な国際ブランドは、JCB、VISA、MasterCardなどが挙げられる²⁾。

③ 電子マネー

電子マネーとは、一般に、利用する前にチャージを行うプリペイド方式の電子的な決済手段を指す。利用者は、電子的なデータのやり取りを通じて、現金（貨幣や紙幣）と同じように、モノを買ったりサービスを受けたりすることができる³⁾。

代表的な電子マネーには、鉄道会社など交通系ではPASMO、Suicaなどが挙げられる。流通系ではWAONやnanaco、他にはid、Quick Payなどが挙げられる。

④ コード決済

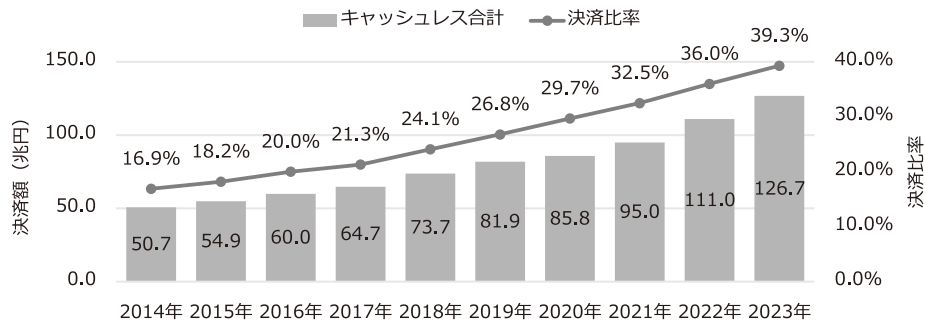
コード決済は電子マネーの一種であるが、利用時にスマホアプリを立ち上げ、QRコードやバーコードで認証して支払う決済手段を指す。利用可能な場所を特定の店舗やチェーン店などに限定せず、より広範囲での利用を前提としている汎用型のコード決済としては、PayPay、d払い、au Pay、楽天ペイ、メルペイなどが挙げられる（山本、2022）。

3. 日本におけるキャッシュレス決済の状況

図表2は、日本におけるキャッシュレス決済比率の推移を示している（経済産業省、2023）。毎年

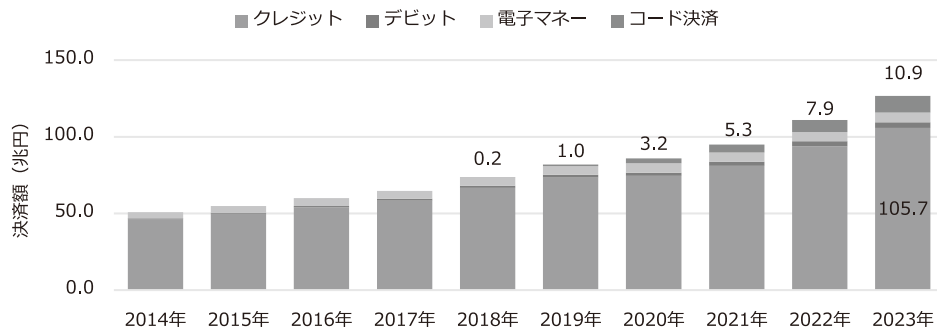
上昇を続けており、2023年の決済額は126.7兆円、決済比率は39.3%となった。図表3はキャッシュレス決済の内訳を示したものである。2023年におけるクレジットカードによる決済額は105.7兆円であり、キャッシュレス決済126.7兆円のうち83.5%を占めている。成長が著しいのはコード決済である。2023年の決済額は10.9兆円で全体の8.6%にすぎないが、前年の7.9兆円から3兆円増（対前年比137.9%）となった。

図表2 日本におけるキャッシュレス決済比率



出所：経済産業省（2023）

図表3 キャッシュレス決済額推移



出所：経済産業省（2023）

日本におけるキャッシュレス決済の促進に貢献した施策の1つとして、2019年から2020年にかけて政府が実施したキャッシュレス・ポイント還元事業が挙げられる。これは、中小・小規模事業者によるキャッシュレス手段を使ったポイント還元を支援する仕組みである。実施後のアンケートでは、回答者の47.7%が「2020年3月の緊急事態宣言以降、支払や買物に占めるキャッシュレス決済の比率は増えた」と回答した（経済産業省、2022）。

キャッシュレス決済のメリットとしては、大きく企業・政府側の要因と消費者側の要因に分けることができる。企業・政府側のメリットとしては、コストの削減や、新たなビジネスチャンスを探索することができることが挙げられる。キャッシュレス決済を利用することで、実店舗の無人化省力化が可能である（元木、2019）。経済産業省（2022）によると、キャッシュレス決済を進めることで、レジ業務の所要時間を約35%短縮することができるという。人手不足の日本にとって、中小企業の生産性向上につながる重要な取り組みといえる（翁、2019）。また、支払データの利活用による新サービスの創出や、インバウンド商品の喚起・拡大も期待され（元木、2019）、電子決済が生み出す各種データの利用などの副次的な効果も期待される（高澤・大森、2019）。政府にとっても、不透明な現金資産の見える化と不透明な現金流通が抑止され（元木、2019）、脱税、汚職、組織犯罪の削減の可能性

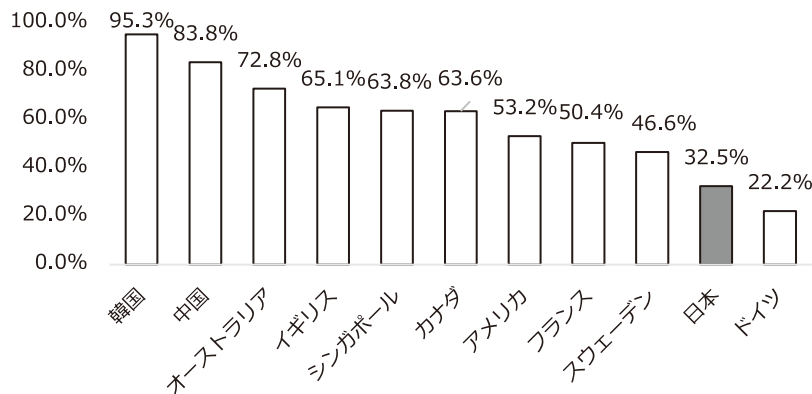
が期待できる⁴⁾。キャッシュレス決済の切り替えにより、国の年間GDPが最大3%増加することが指摘されている（Kauffmanら、2021）。

消費者側のメリットとしては、支払が便利、決済処理が速い、現金をATMで引き出さなくて済む、小銭を使わなくて済むという利便性の高さが挙げられる。上杉（2023）は、「利便性」への高い認識がキャッシュレス決済経験者の比率を引き上げる原因となっていることを示した。また、アプリなどで金銭の管理がしやすい、使いすぎなくて済むといった管理面をメリットとして挙げている。Levitin（2018）は、デジタルウォレットにより消費者の取引を保存することで、消費者の返品、交換、払い戻しを容易にするだけでなく、税務管理や個人の財務計画にも役立つと指摘している。さらに、ポイント還元や、銀行からのキャッシュバックなどのインセンティブもメリットに挙げられる（Changら、2021）。また日本では、キャッシュレス決済を利用する理由として「ポイントが貯まるから」を挙げる割合が高い（竹村、2021）。2019年のポイント還元事業を機にキャッシュレス決済を始めた人は全体の17.5%で、年代別では20代や30代の広がりが大きかった（三井住友信託銀行、2020）。さらに、利用できる店舗が増えてきたこともプラス要因となっている。

4. 外国におけるキャッシュレス決済の状況

しかしながら、世界各国と比較するとキャッシュレス決済が進んでいるとはいえない。図表4は、2021年時点での海外主要各国のキャッシュレス比率を比較したものである⁵⁾。2021年時点で多くの国で50%を超えており、韓国や中国では80%を超えている。日本は32.5%であり、世界各国に比べると低い水準である。

図表4 世界各国のキャッシュレス決済比率（2021年）

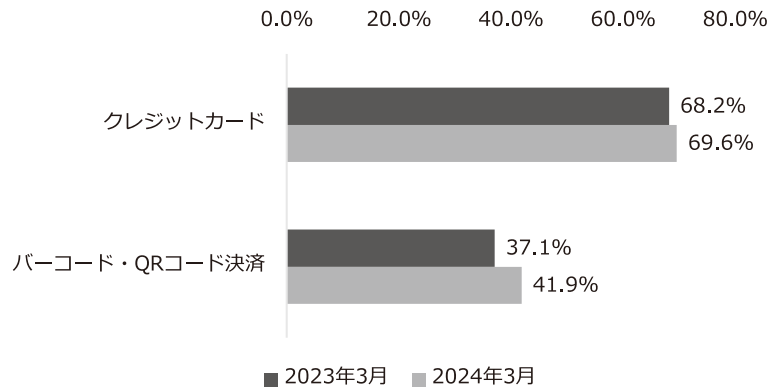


出所：一般社団法人キャッシュレス推進協議会（2023）

この数年を見ると、キャッシュレス決済は増加している。図表5は、現金以外の決済利用状況の調査結果であるが、バーコード・QRコード決済の利用率は2023年3月の37.1%から、2024年3月は41.9%となっており、前年に比べて4.8ポイント増加した⁶⁾。

年齢層別で見ても、5年前は20代の過半数が現金決済志向であったが、2024年には2割まで減っており、この5年間で大きな意識変化があったことを指摘する声もある（翁、2024）。しかし、他国に比べると後れを取っている現状は否めず、日本においてはキャッシュレス決済が成長の余地を残しているといえる。日本の課題を講じる前に、世界各国ではどのようにキャッシュレス決済の導入が進んだのか、スウェーデンと韓国を例に紹介する。

図表5 現金以外の決済利用状況（複数回答）

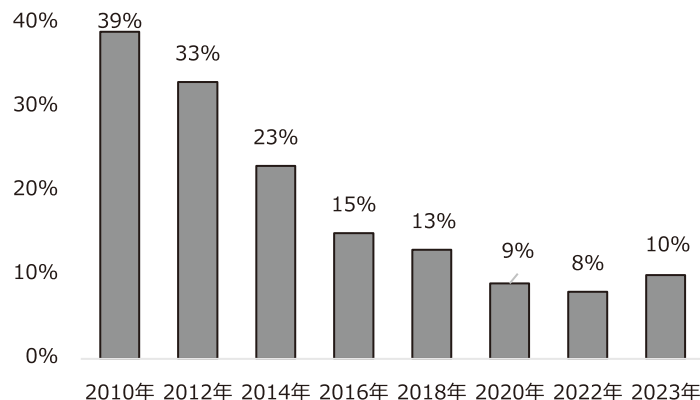


出所：日本銀行（2024）⁶⁾ を基に主な回答のみ抜粋

① スウェーデンの事例

スウェーデンはキャッシュレス先進国として知られている。図表6は、スウェーデンにおける最近の購入代金を現金で支払った人の割合を時系列で示したものである。2010年には39%を占めていたが、徐々に低下し、2022年には8%となった。その後微増に転じたが、2023年も現金決済が占める割合はわずか10%である⁷⁾。既に5人に1人のスウェーデン人が現金を引き出していないという⁸⁾。羽森（2023）によると、スウェーデンは、国土面積は日本の約1.2倍、人口は12分の1の約1,000万人であり、都市同士も離れているため現金の輸送・回収コストや過疎地のATM維持コストが高かったことがキャッシュレス決済が進んだ要因だという。さらに、スウェーデンでは高福祉国家維持のためには税金が国の基本であり、収入・支出・保有財産などに関する経済上のプライバシーは存在しないという考え方が国民の間でも浸透しており、国民番号制の下、税務署があらゆる個人情報を把握しているという伝統があることも指摘されている（羽森、2023）。

図表6 最近の購入代金を現金で支払った人の割合

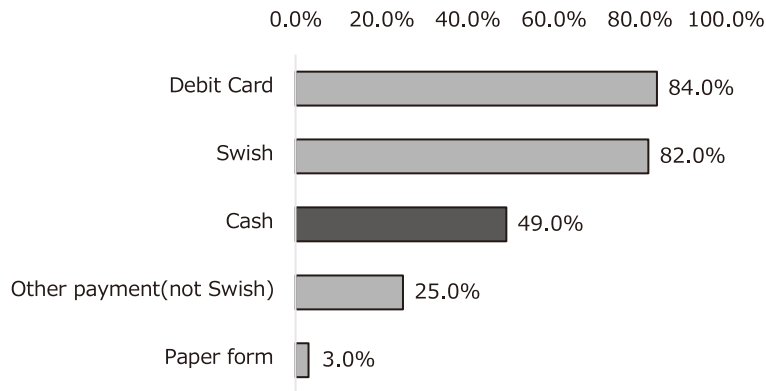


出所：RIKS BANK

図表7はスウェーデンにおける、過去30日に使用した購入手段を示している（複数回答）。最も多いのがデビットカード（84.0%）であるが、次いでSwish（82.0%）となっている。現金は49.0%であった⁹⁾。

Swishは、2012年にスウェーデンの大手銀行6行の協力により個人ユーザーの決済サービスとしてスタートした。2022年にはユーザーが800万人に達した¹⁰⁾。Swishが選ばれた理由は、そのシンプルさ、

図表7 過去30日に使用した購買手段



出所:RIKIS BANK

柔軟性，そして口座からすぐにお金が引き出されることが挙げられる¹¹⁾。

そのため，現金の流通量はGPDの1%にまで減少しており，スウェーデンの小売店の半数は，2025年までに現金の取扱をやめる予定である。しかし，退職者，最近移民した人，障害のある人，地方に住んでいる人は特に弱い立場にあることから，スウェーデン中央銀行はすべての銀行に現金サービスの提供を続けるよう指示した¹²⁾。

② 韓国の事例

韓国はアジア通貨危機以降，政策の一環としてクレジットカード利用の促進を中心にキャッシュレス化を勧めたこともあり，高いキャッシュレス比率を誇っている（佐藤・江夏，2019）。政府はクレジットカード利用促進策として，年間クレジットカード利用額の20%の所得控除（上限30万円），宝くじの権利付与（1,000円以上利用で毎月行われる当選金1億8千万円の宝くじ参加権の付与），店舗でのクレジットカード取扱義務付けなどを実施した¹³⁾が，このような取組がキャッシュレス化へと導いた。

2018年には，モバイル決済サービス，通称「ゼロペイ」が開始された。ゼロペイは，政府が主導している決済中間段階がない小商工業者を対象とした簡単決済であり，小売業者が負担する利用料負担を軽減することを目指して導入された¹⁴⁾。

5. 現金決済のメリット・デメリット

現金決済のメリットとしてはどのようなものがあるのだろうか。第1に，現金支払で困ることがないことが挙げられる¹⁵⁾。残高管理のわかりやすさや，無意識に利用しているなど，習慣的に現金を利用しており（経済産業省，2023），特に問題が生じていないことから，キャッシュレスへと移行していないことが推測される。現金だから管理がしやすいという効果は，今持っている手持ちの現金に限ったことではないことが示唆されている（Runnemarkら，2015）。

第2に使いすぎる心配がないことが挙げられる。日本銀行の調査では，日常生活の支払に現金を利用する理由について，「多くの場所で利用できる」に次いで「その場で支払が完了する」，「使いすぎる心配が少ない」が挙げられた¹⁶⁾。また，現金を使用すると財務状況を把握しやすくなると強調する意見も見られる¹⁷⁾。また，キャッシュレス決済での使いすぎに不安を感じるほど，現金決済を利用することが指摘されている（鶴沢，2021）。

第3に日本独自のメリットとして，国内の利便性の高さ，治安の良さも挙げられている。鶴沢(2021)

は高度に発達したATM網、治安の良さなどの現金利用を前提にしたインフラが整っており、その結果キャッシュレス決済においては、むしろ後進国と位置づけられるのではないかと論じた。

一方、現金決済のデメリットとしては、下記のことが挙げられる。第1に持ち運びが不便ということである。キャッシュレス決済が進んでいる韓国では、硬貨を使わない理由として「持ち運びが不便」であることが挙げられている¹⁸⁾。第2に、キャッシュレス非対応の店舗は、今後使用が避けられる可能性がある点が挙げられる。キャッシュレス決済利用者の40%以上は、キャッシュレス決済非対応店舗の利用を避けると回答した（経済産業省、2022）。第3に現金を引き落とす際に、時間帯などによっては手数料がかかることが挙げられる。

社会における現金のコストのかかる使用を減らしたいという要望にもかかわらず、現金が依然として広く使用（Bergmanら、2008）されている。しかし、Nomanら（2023）は、キャッシュレス決済が長期的にはG7諸国の経済成長に有意かつプラスの影響を与えることを示唆している。このままキャッシュレス決済が他国に後れをとると、経済成長にも影響を与えかねない。

6. キャッシュレス決済の阻害要因

諸外国ほどキャッシュレス決済が進まない理由は、各種文献からいくつか提示されている。これらを、小売業側の要因と消費者側の要因に分類して整理する。

① 小売業側の要因

小売業側の意見として、手数料が高い、導入のメリットが不明であることが挙げられる。全体の4割強の企業においては、現状でもキャッシュレス決済手段が利用できない状態となっている。2021年に経済産業省が実施した実態調査によると、キャッシュレス決済を導入していない事業者の主な理由として、「顧客からの要望がない」が第1位、「手数料が高い」が2位、「導入のメリットが不明」が第3位となっている（経済産業省、2022）。諸外国からは、日本は「現金が王様」の国¹⁹⁾と見られている。また、高度に発達した国家インフラであっても、環境の複雑さと消費者、商店、政府の変化への抵抗により、目新しい技術ソリューションが使用されず、地域のデジタル化環境が低調になる可能性があることを指摘されている（Kauffmanら、2021）。

② 消費者側の要因

消費者の心理的阻害要因としては、第1に使いすぎへの懸念が挙げられる。経済産業省（2022）の調査でも、使いすぎを背景に利用をためらう回答が見られた。竹村（2021）の調査でも、「現金以外の決算手段だとお金を使いすぎてしまうから」と回答する割合が最も高かった。実際、現金よりもクレジットカードやデビットカードの利用を前提とした人の方が、支払意思額が小さい結果となった（尾室、2023）ことや、キャッシュレス決済が店内での非計画購買を多く発生させていること²⁰⁾が指摘されている。またSoman（2003）は、大学生を対象にした実験により、講義の課題の遂行において、コピーカードを利用させた大学生の方が、現金を利用させた大学生よりもコピー枚数が多くなることを指摘している。クレジットカードやスマートフォン決済などの利用時には、物理的な金銭の授受がなく、お金を支払っている感覚が薄れ、使いすぎにつながる事が考えられる（尾室、2023）。安川ら（2021）の調査でも、学生の意識は「大きな金額の買物は現金」であるというが、それも使いすぎを懸念していることが理由として考えられる。

第2にセキュリティの不安が挙げられる。「盗難・紛失リスクへの不安」、「個人情報流出リスクへ

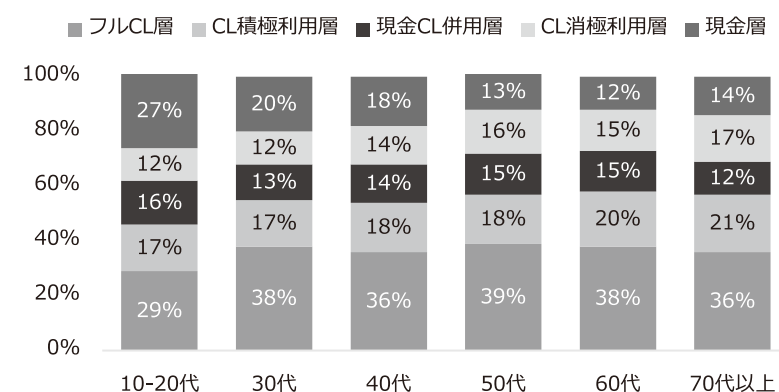
の不安」,「不正利用や悪用リスクへの不安」を各種調査でキャッシュレス決済を行わない理由として上位に挙げられた(経済産業省, 2022, 経済産業省, 2023)。Changら(2021)によると, 特に若者や高齢者層がモバイル決済におけるデータセキュリティの問題を懸念している可能性があることを示されている。日本の消費者は, 安全性や信頼性が高い「現金」と引き換えに, 安全性や信頼性が劣るFinTech事業者のサービスに, 自らの情報まで差し出すことに抵抗があり, その不安はキャッシュレスがもたらす利便性ではカバーできないと考えている(安川・柳原, 2021)。

第3に, 手数料負担が店舗に悪いと考える消費者が一定層いることが挙げられる。手数料負担が店舗に悪いと感じる場合, 店に申し訳ないと思ってキャッシュレス決済を避けたことがあるかどうかを尋ねたところ, 全体の約2割の人がその経験があると回答した(経済産業省, 2023)。

7. 若年層においてキャッシュレス決済が進まない理由

経済産業省は, 2022年にキャッシュレス実態調査を実施した。図表8は, 年代別のキャッシュレス利用割合を示したものである。セグメントの定義は, フルCL層: 可能な限りすべてキャッシュレス決済を利用, CL積極利用層: 7~8割程度はキャッシュレス決済を利用, 現金CL併用層: 現金とキャッシュレスを半分ずつ程度利用, CL消極利用層: 2~3割はキャッシュレス決済, あとは現金を利用, 現金層: 現金のみ利用と分類している²¹⁾。この結果によると, 回答者全体では, フルCL層とCL積極利用層を足した割合は54%であり, 全体の50%以上の人は決済にキャッシュレスを用いていることがわかる。しかし, 年代別に見ると, 10-20代でフルCL層とCL積極利用層を足した割合は46%であり, 全体に比べて8ポイント低いことがわかる。これは, デジタル化が遅いと指摘されがちな70代以上と比べても低い。一方, 10-20代の現金層は27%であり, 全体に比べて10ポイント高い。そのため, 日本のキャッシュレス化が進んでいない要因の1つに, デジタルネイティブであるはずの, 若年層によるキャッシュレス決済が進んでいないことが挙げられる。

図表8 年代別のキャッシュレス利用割合(頻度ベース)



出所: 経済産業省(2022)²¹⁾

若年層ほどキャッシュレス決済が進んでいないのは意外な印象ではあるが, 太宰(2020)は, 若いほどデジタルに親和性が高まるものの, 若者の方がキャッシュレスを利用することに関しては, 調査により棄却している。また, 2019年にポイント還元事業を機にキャッシュレス支払を始めた人の割合は全体で17.5%いた一方, 利用したにもかかわらず今後キャッシュレスを利用しないとした人が14.0%いた(三井住友銀行, 2020)。これは, 必ずしも高齢者に偏っているというわけでもなく, す

すべての年代で同程度存在していることから、若年層における現金志向の根強さが伺える。そこで、若年層になぜキャッシュレス決済が進まないのか、その要因をヒアリング調査により明らかにする。

8. 日本の大学生のキャッシュレス利用状況ヒアリング調査

① 調査目的

これまで若年層のキャッシュレス決済が進まない要因を明らかにしてきたが、今後キャッシュレス決済を推進していくためには、どのようなことが考えられるだろうか。仮説を抽出する前に、そもそもの利用状況、利用意識をヒアリング調査により明らかにする。

② 調査概要

• 調査対象者

都内の大学3・4年生8名に実施した。事前の調査より、主に現金を使う学生と、キャッシュレスを使う学生それぞれにインタビューを行い、利用理由を明らかにした。予備調査の内容は図表9のとおりである。

図表9 調査対象者のプロフィール

調査対象者	性別	学年	主な決済手段
No.1	女性	大学4年生	現金
No.2	男性	大学4年生	現金
No.3	女性	大学4年生	併用
No.4	女性	大学4年生	キャッシュレス
No.5	女性	大学3年生	キャッシュレス
No.6	男性	大学3年生	併用
No.7	男性	大学3年生	現金
No.8	女性	大学3年生	キャッシュレス

• 調査期間

2024年10月15日～11月21日に実施した

• 調査期間

主な調査項目は、下記のとおりである。

- 事前調査の確認
- キャッシュレス決済の保有状況
- 買物に対するキャッシュレス決済の利用割合
- 現金決済に対する考え方
- キャッシュレス決済に対する考え方
- 謝礼の利用状況

③ 調査結果

• キャッシュレス決済保持状況

インタビュー回答者の各種キャッシュレス決済保持状況は図表10のとおりである。すべての回答者がクレジットカードやQRコード決済を所有していると回答した。

図表10 キャッシュレス決済の保持状況

調査対象者	主な決済手段	キャッシュレス決済の保持状況			
		クレジットカード	電子マネー	デビットカード	QRコード
No.1	現金	1枚	Suicaなど	持っていない	PayPay
No.2	現金	1枚	PASMO	持っている	PayPay, d払い
No.3	併用	3枚	Suicaなど	持っている	PayPay
No.4	キャッシュレス	2枚	Suicaなど	持っている	楽天Pay, PayPay
No.5	キャッシュレス	3枚	Suicaなど	持っている	PayPay
No.6	併用	1枚	PASMO	持っていない	楽天Pay, PayPay
No.7	現金	1枚	PASMO	持っている	PayPay
No.8	キャッシュレス	2枚	PASMO	持っている	PayPay

• キャッシュレス決済を契約した経緯

各キャッシュレス決済を契約した経緯としては、大きく「旅行など必要に応じて」作った場合と、「銀行口座を作る際に、クレジットカードやデビットカードの作成を勧められた」ことが挙げられる。QRコード決済に関しては、「流行に乗りたい」や、「友達に勧められて」という回答も見られた（図表11）。

図表11 キャッシュレス決済を契約した経緯

調査対象者	主な決済手段	契約理由
No.1	現金	<ul style="list-style-type: none"> • クレジットカードは、先日香港へ旅行に行く際に契約した • PayPayは、マイナンバーカードを契約するとポイントがもらえるため契約した
No.2	現金	<ul style="list-style-type: none"> • 銀行口座を作る際にデビットカードも作った方が、ポイントが貯まったため契約
No.3	併用	<ul style="list-style-type: none"> • クレジットカードは学生カードがあり契約した • QRコード決済は、PayPayが出始めたころより利用。流行に乗りたいと思った
No.6	併用	<ul style="list-style-type: none"> • クレジットカードは、家族カードを作る際に作った
No.7	現金	<ul style="list-style-type: none"> • デビットカードは、キャッシュカード作る際に作れると聞いたので作った • クレジットカードも、キャッシュカードを作る際に勧められて作った
No.8	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • 銀行口座を作る差に、デビットカードとクレジットカードが両方ついているものを作った • 友人に現金だと割り勘の決済の時に大変だと言われたため、PayPayに入った

• 普段の買物に対するキャッシュレスの利用割合

現金派は80%以上を現金で支払、キャッシュレス派はほぼ100%キャッシュレスで買物をしている

と回答した。事前調査での回答と齟齬は見られなかった。現金派は、仕送りが現金で支払われる、アルバイト代が現金で支払われているため、口座に振り込むことなく現金で支払っているとの回答が見られた（図表12）。

図表12 普段の買物に対するキャッシュレスの利用割合

調査対象者	主な決済手段	利用状況
No.1	現金	<ul style="list-style-type: none"> • ほぼ100%現金 • 仕送りを現金でもらうため、自然と現金で決済することが多い • レジで待ったり、少額であったり、荷物が多くて財布を出すのが大変なときはキャッシュレスで決済
No.2	現金	<ul style="list-style-type: none"> • ほぼ現金。大きな買物（2,000円以上）をするときはデビットカードにすることもある
No.3	併用	<ul style="list-style-type: none"> • 食品は現金が多い。日用品や娯楽系はクレジットが多い • 手持ちで現金があるかどうかで現金にするか、キャッシュレスにするかを判断。5,000円くらいの買物をするときはキャッシュレスで支払う • PayPayは友人との送金で使う
No.4	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • ほぼ100%キャッシュレス。楽天Payによってポイントを貯めたい • 自宅最寄りのスーパーはQRコード決済が使えないため、クレジットカードを利用している
No.5	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • ほぼ100%キャッシュレス • 現金しか使えない時以外はキャッシュレスで支払っている
No.6	併用	<ul style="list-style-type: none"> • 50%くらい。あまり財布を持ちたくないが、小銭くらいなら持って行ってもよいので、持っている時は現金で払う • 財布に現金がある程度入っているので、入っている時は現金で決済。ただしなるべく札を崩したくないので5,000円を超えるとキャッシュレス決済
No.7	現金	<ul style="list-style-type: none"> • 80%くらい現金で、20%くらいクレジットカード • 基本は現金で支払う。残金が足りないなというときにクレジットカードを使う • 仕送りが郵貯のため、そこから現金を引き出して使うことが多い
No.8	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • 80%くらいはキャッシュレス。基本はデビットカードを使う。現金を使うのは、口座にお金がない時。しかしあまりそのようなケースは少ない

・現金決済に対するイメージ

現金決済に対するイメージを聞いたところ、現金派は「キャッシュレスは信用できない」「現金で払うのは慣れている」「現金は管理をしやすい」という意見が見られた。一方、キャッシュレス派は、「財布を持参する場合、持っていくカバンが変わる」「会計に時間がかかる」「銀行でおろす際に手数料がかかる」などの煩わしさを挙げ、否定的な意見が見られた（図表13）。

図表13 現金決済に対するイメージ

調査対象者	主な決済手段	利用状況
No.1	現金	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレスはやや信用できない ・自分が契約している銀行は、コンビニの銀行でおろす際、学生なら月3回まで手数料がかからない ・あまり考えずに使うタイプのため、目に見えて現金が減っていないと使いすぎてしまう
No.2	現金	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトの給料が現金で渡されるため、現金で決済したい。わざわざ口座に振り込むのは面倒 ・現金で払うのは慣れているし、習慣で支払っている ・現金は今いくら使っているか総額がわかりやすい。家計簿をつけているので、総額がわかりやすい
No.3	併用	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行口座にあまりお金が入っていないため、極力手元にある現金でやりくりしたい ・現金は管理しやすい。目に見えてお金が減るので、使いすぎに気が付きやすい ・クレジットカードは使いすぎないように、何に使っているか定期的に確認している
No.4	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> ・現金しか使えないところ以外は現金では支払わない。事前に現金が必要と分かれば用意して外出する ・財布を持参する場合、持っていくカバンが変わる
No.5	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> ・現金は会計に時間がかかる。小銭をあさるのが面倒。おつりが溜まってしまう ・現金決済している人を見ると、面倒そうだなと思う。友人にQRコード決済を勧めた
No.6	併用	<ul style="list-style-type: none"> ・残高や支出の管理がしやすい。手元にいくらあるのかがわかりやすい。使いすぎているか確認できる ・手元の現金がなくなると使いすぎないと思う。欲しいものがあったとしても我慢できる
No.7	現金	<ul style="list-style-type: none"> ・現金はどれだけ使ったかがわかるので、使いすぎだから押さえよう、という意識が働く ・友人と食事に行く際も、現金の方が融通は利く
No.8	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> ・現金は、使いたいと思った時に下すと手数料がかかる場合があるのが面倒。 ・財布が全財産ではないので、口座のすべてを把握できない ・現金だと1日でいくら使ったかは把握できるが、それぞれでいくら使ったかは把握できない

・キャッシュレス決済に対するイメージ

キャッシュレス決済に対するイメージを聞いたところ、キャッシュレス派・併用派は「アプリで残高が確認しやすい」「ポイントが貯まる」などの肯定的な意見が見られる一方、「クレジットカードはいくら使っているのかがわかりにくい」「キャッシュレスだと使いすぎている気がする」などの否定的な意見も見られた。現金派は「通信障害などがある」「不正使用のリスクがある」など、前述したキャッシュレス決済のデメリットを挙げる意見が見られた。また、PayPayなどのQRコード決済に関しては現金派も利用しているが、「口座にお金を振り込むのが面倒」という意見が見られた（図表14）。

図表14 キャッシュレス決済に対するイメージ

調査対象者	主な決済手段	利用状況
No.1	現金	<ul style="list-style-type: none"> • キャッシュレスは消極的に利用 • キャッシュレスは通信障害などがある。手元に現金がないと不安
No.2	現金	<ul style="list-style-type: none"> • 手持ちの現金がないとき、大きな買物をするときはデビットカードにする。クレジットカードは後払いのため使いたくない。 • PayPayは自分が普段使っている口座との紐づけができなかった。
No.3	併用	<ul style="list-style-type: none"> • クレジットカードには、不正利用などのリスクがあると思う。また、通信に不都合があった場合などに使えないことがある
No.4	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • アプリで銀行の残高は確認できる • 使いすぎる心配はある。そのため、毎週利用状況をチェックする
No.5	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • ポイント還元率が高い。まとめて利用金額が把握できる。全体でいくら払っているのかわかる。ATMで引き落とす手間がない • 大手であれば何かあった時も保険が適用されるのではないかと思う
No.6	併用	<ul style="list-style-type: none"> • キャッシュレスは口座からお金が減っていくのが嫌 • クレジットカードには借金のイメージがある • キャッシュレスだと使いすぎる気がする。
No.7	現金	<ul style="list-style-type: none"> • クレジットカードは確かに便利。しかし、使っている感じがしないため、使いすぎてしまう心配がある • 友人間での細かいやりとりにはPayPayなどが便利。しかし、わざわざお金をPayPayの口座に振り込む手間があるので、極力使いたくない
No.8	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • クレジットカードはいくらでも使えるので怖い。借金のような印象。クレジットカードは、自分で稼いでいる大人が使う、というイメージ。 • デビットカードは今いくら口座に残っているのか、今月いくら使ったのかなどが把握できる。すぐに決済される。現金のようにいくら使ったかもわかり、決済が速いのがデビットカードの良い点

・友人間の送金に関して

友人と食事をして、一括で支払った場合の送金方法について尋ねた。すると、キャッシュレス派はPayPayで送金を行う傾向が見られた。「端数もしっかりと支払う」という意見も見られた。一方、現金派は「現金でもよいし、PayPayでもよい」という回答が見られた（図表15）。

図表15 友人間の送金方法

調査対象者	主な決済手段	利用状況
No.1	現金	<ul style="list-style-type: none"> • 現金かPayPayかどちらがよいか聞く。たいていはどちらでもよいといわれる • お礼は現金、端数はPayPayで渡すことが多い
No.2	現金	<ul style="list-style-type: none"> • 現金で支払う／もらうことが多い。多めに支払ったり、少ない場合はコンビニで何か買う／買ってもらって調整 • 端数はそれほど気にならないが、PayPayで支払う人は端数まできちんと決済したが
No.3	併用	<ul style="list-style-type: none"> • 基本は現金で決済したい。端数をPayPayで支払う
No.4	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • PayPayを使う。主に友人との送金に用いる • 人数が多い場合は現金で支払うこともある
No.5	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • 基本はPayPayで行っている。大人数の場合は現金でやりとりする
No.6	併用	<ul style="list-style-type: none"> • 支払は相手の望む方で支払う。多めに出す。ただし、飲み会の時は履歴が残るのでPayPayで支払うようにしている • 端数ではなく多めに払いたい。細かい人と思われたくない
No.7	現金	<ul style="list-style-type: none"> • お礼を持っていたら自分が払い、現金で友達からもらう。PayPayはそれほど周りで使っていない
No.8	キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> • まとまった支払をできる人が少ないので、自分が支払い皆からもらうことが多い。できれば現金でもらいたい • PayPayでももらうこともあるが、数千円単位での送金は避けてほしい

・事前に渡した謝礼の使用有無

今回インタビューを行うにあたり、調査の1週間前にPayPayで謝礼を1,000円分渡した。これは、現金を主に利用する層でも「あれば使うのではないか」と考えたためである。調査終了後に「先日渡したPayPayは使いましたか？」という質問をしたところ、全員が何らかの形で「使った」と回答した。普段は現金派の回答者も、「友人との送金に使った」「アルバイト先の人に少額渡す必要があったので、それに使った」などに用いられた（図表16）。

図表 16 事前に渡した謝礼の使用有無

調査対象者	主な決済手段	利用状況
No.1	現金	• 使った。何に使ったかは覚えていない。友達との送金に使ったと思う。友達間の送金にはよく使う
No.2	現金	• 使った。PayPayにお金があれば使う、という感じ
No.3	併用	• 使った。意識もなく使った。友人との送金によく使う
No.4	キャッシュレス	• 使った。友人との支払に用いた
No.5	キャッシュレス	• ポイントを貯めて投資している
No.6	併用	• 普段から使っており、支払の一部として使った
No.7	現金	• たまたま使う用事があったので使った。アルバイト先の人に少額渡す必要があった。あれば使うという感じ。残りはまだ使っていない
No.8	キャッシュレス	• 使った。あれば使う

④ 調査のまとめ

決済に関するインタビューを行い、以下のことが確認できた。第1に、現金派は利便性や利用方法がわからずにキャッシュレス決済の利用をためらっているわけではないことが挙げられる。謝礼のPayPayは問題なく利用していることから、利用したくないというよりは、消極的な利用姿勢であることが伺える。

第2に、現金派でもキャッシュレス決済の口座にお金があると利用しており、「あれば使う」という考え方を示していることが挙げられる。上記の消極的な利用姿勢にも関連するが、口座に振り込むなどの面倒臭さからQRコード決済の利用をためらっている意見も見られた。

第3に、現金派とキャッシュレス派ではお金の管理に対しての考え方が大きく異なることが挙げられる。現金派は目に見えてお金が無くなっていくので管理がしやすいと回答する一方、キャッシュレス派はアプリなどでいつ、どこで、何を買ったのかが理解できるのでキャッシュレスの方が管理しやすいという意見が見られた。そのため、キャッシュレス決済の利便性を伝えた場合でも、現金派はそのメリットを感じないことが想定される。

第4に、キャッシュレス派、現金派ともに「キャッシュレスは現金よりもお金を使いすぎる」「クレジットカードは借金をしているイメージ」という意見が見られる一方、デビットカードの利用はそれほど意識していない点が挙げられる。No.8の回答者は主にデビットカードを利用しているが、「現金とクレジットカードのいいところ取りをしているのはデビットカードである」と主張している。借金というイメージでキャッシュレスを懸念しているのであれば、もう少しデビットカードの利用を検討してもよいはずだが、そもそも持っていない可能性が考えられる。

以上より、以下の点を仮説として挙げ、アンケート調査により明らかにしていく。

- 現金派は「お金の管理のしやすさ」は現金であると主張し、キャッシュレス派はキャッシュレスであると主張する。そのため、現金派にキャッシュレスの利便性の訴求をしても、そのメリットは伝わらない可能性がある
- キャッシュレス決済のセキュリティを理由に挙げる割には、デビットカードの利用は進んでいない。
- 現金派は消極的にキャッシュレス決済を利用している。Mukhopadhyay (2016)によると、キャッシュレス決済の最も重要な促進要因は、口座への資金の流入であるという。そのため、口座に金額がある状況を作ると、より利用する頻度が高まると想定される。そのため、現金派でも友人間の送金をキャッシュレスで行っても、否定的な態度は取らない、また、アルバイト代などをキャッシュレスで振り込むなど、自ら振り込まなくともデジタル払いの口座にお金が振り込まれる施策を強化することが考えられる

9. 日本の大学生のキャッシュレス利用状況定量調査

ヒアリング調査から得られた仮説を明らかにするため、都内の大学生を対象に、定量調査を実施した。調査回答者のデモグラフィック特性は図表17のとおりである。当初189名に調査したが、調査結果に不備が生じた3名を除いた186名を対象に集計を行った。

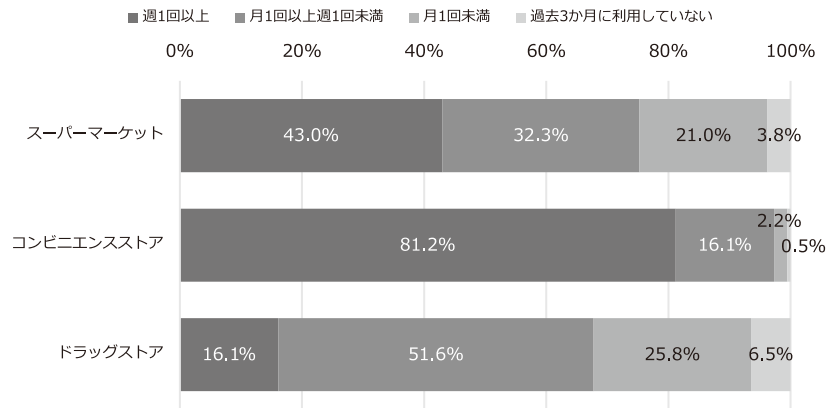
図表17 アンケート回答者のデモグラフィック特性 (n=186)

	変数	N数 (名)	割合
性別	男性	121	65.1%
	女性	65	34.9%
学年	大学1年生	40	21.5%
	大学2年生	53	28.5%
	大学3年生	46	24.7%
	大学4年生	47	25.3%

① 調査結果

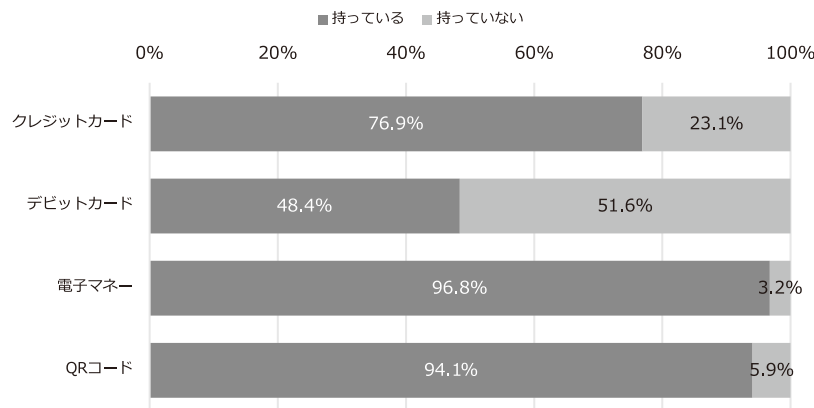
スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストアにおける、過去3か月の平均来店頻度は図表18のとおりである。週1回以上の割合はスーパーマーケットが43.0%、コンビニエンスストアが81.2%、ドラッグストアが16.1%であった。

図表 18 過去3か月の平均来店頻度（n=186）



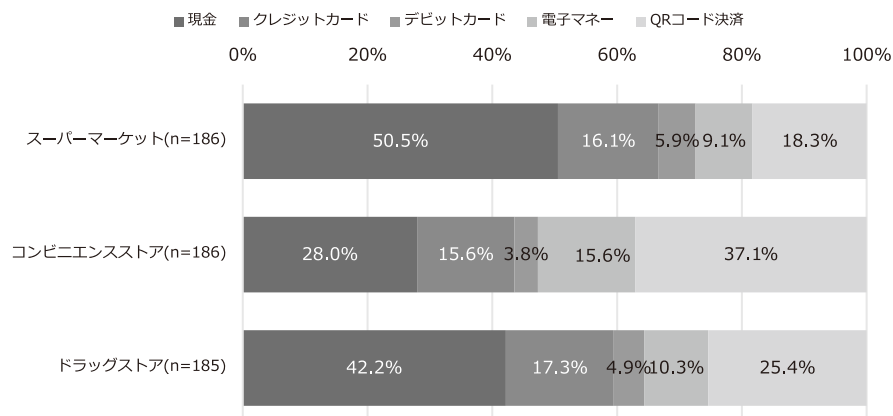
各種キャッシュレス決済の保有率は図表19のとおりである。電子マネーの保有率は96.8%, QRコード決済の保有率は94.1%であった。

図表 19 キャッシュレス決済の保有率（n=186）



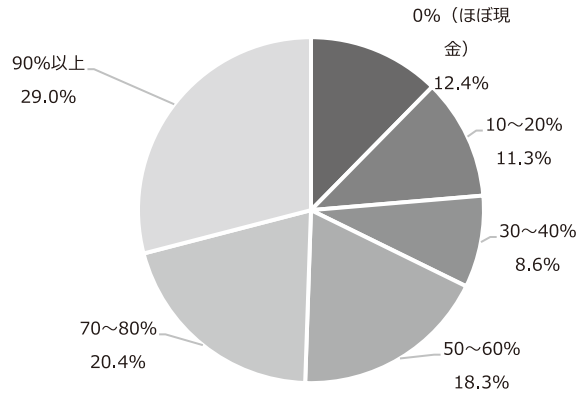
各店舗で最もよく利用する決済手段は図表20のとおりである。現金の割合は、スーパーマーケット50.5%, ドラッグストアが42.2%である。コンビニエンスストアはQRコード決済が37.1%であり、最も高い割合である。

図表 20 各店舗で最もよく利用する決済手段（n=186）



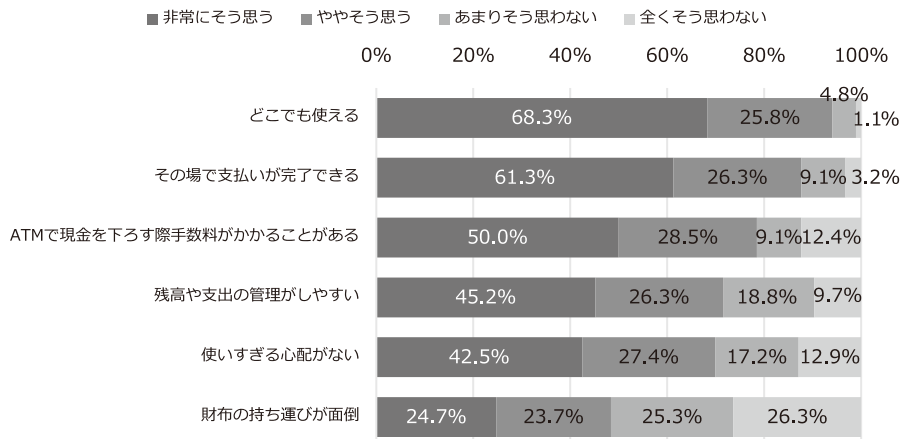
食品・日用品を購入する際のキャッシュレス決済比率を回答してもらった。集計結果は図表21のとおりである。0%（ほぼ現金）は12.4%，10～20%が11.3%，30～40%が8.6%であった。一方，90%以上（ほぼキャッシュレス）は29.0%であった。

図表21 食品・日用品購入時のキャッシュレス決済比率
(n=186)



食品や日用品を実店舗で購入する時に，現金で支払うことに関して，各項目をどのように感じるか回答してもらった(図表22)。「非常にそう思う」と回答した割合が高いのは，どこでも使える(68.3%)，その場で支払いが完了できる(61.3%)であった。

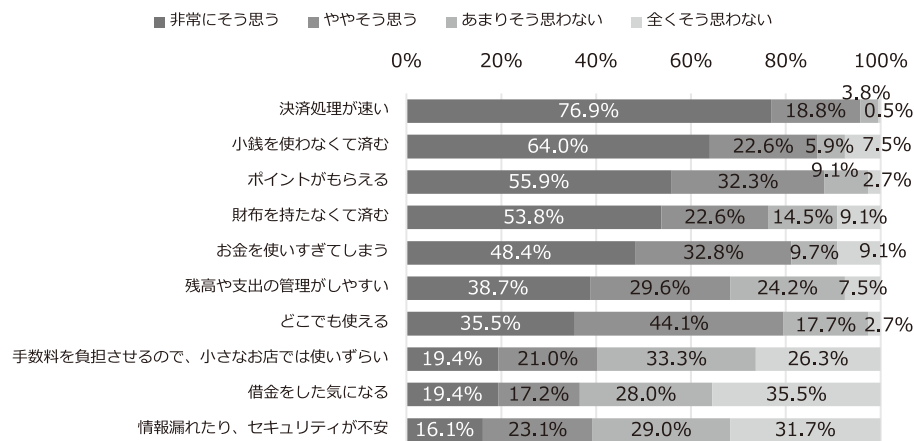
図表22 現金で支払うことに関する感じ方 (n=186)



※「非常にそう思う」が高い順にソート

食品や日用品を実店舗で購入する時に，キャッシュレスで支払うことに関して，各項目をどのように感じるか回答してもらった(図表23)。「非常にそう思う」と回答した割合が高いのは，決済処理が速い(76.9%)，小銭を使わなくて済む(64.0%)であった。

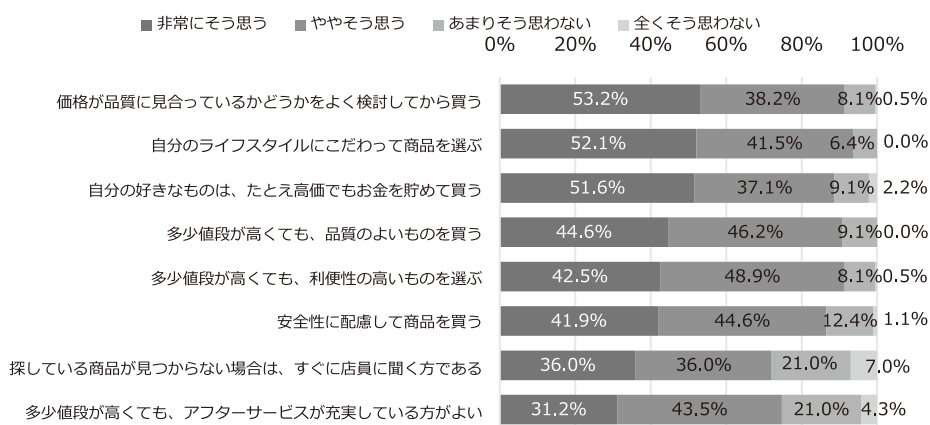
図表23 キャッシュレスで支払うことに関する感じ方 (n=186)



※「非常にそう思う」が高い順にソート

買物に関する価値観を聞いた結果は図表24のとおりである。調査項目は、太宰（2020）の調査結果を基に作成した。「非常にそう思う」と回答した割合が高いのは、価格が品質に見合っているかどうかをよく検討してから買うが53.2%、自分のライフスタイルにこだわって商品を選ぶが52.1%であった。

図表24 買物に関する価値観 (n=186)

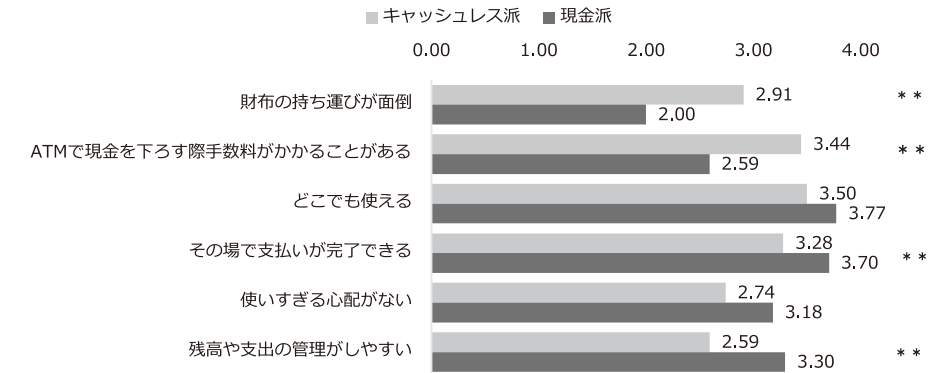


② 現金派とキャッシュレス派間の意識・行動の違い

ヒアリング調査の結果を基に、現金派とキャッシュレス派での意識や行動の違いを調査結果より明らかにする。食品・日用品を購入する際のキャッシュレス決済比率を「0%」「10～20%」「30～40%」と回答した44名を現金派、90%以上と回答した54名をキャッシュレス派と定義し、各設問の違いを明らかにする。以下、「非常にそう思う」を4点、「そう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「まったくそう思わない」を1点として集計し、平均値を現金派とキャッシュレス派で比較した。

図表25は、現金で支払うことに関する感じ方の違いを比較したものである。「財布の持ち運びが面倒」「ATMで下ろす際手数料がかかることがある」は、キャッシュレス派の方が有意に高かった。「その場で支払が完了できる」「残高や支出の管理がしやすい」は、現金派の方が有意に高かった。

図表25 現金で支払うことに関する感じ方の違い

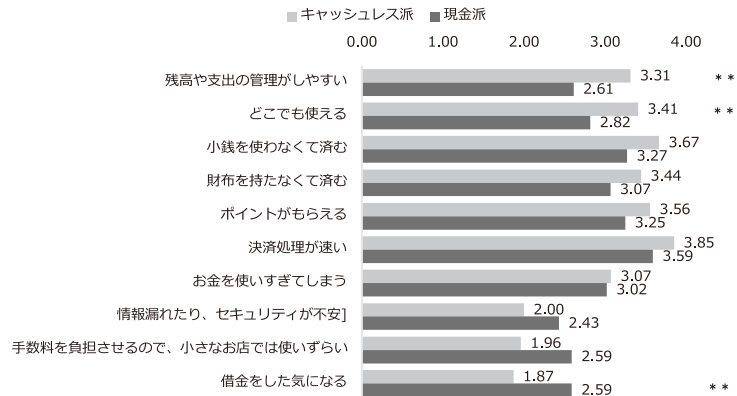


**：1%水準で有意

図表26は、キャッシュレスで支払うことに関する感じ方の違いを比較したものである。「残高や支出の管理がしやすい」「どこでも使える」は、キャッシュレス派の方が有意に高かった。「借金をした気になる」は、現金派の方が有意に高かった。

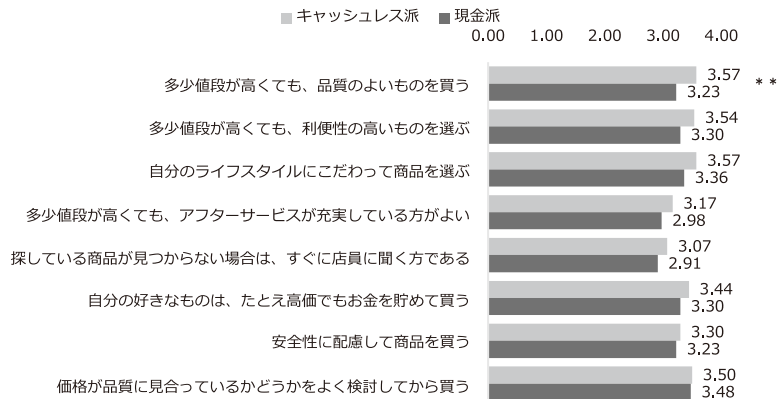
図表27は、買物に関する価値観の違いを比較したものである²²⁾。全体的にキャッシュレス派の方が数値は高かった。有意に差があったのは、「多少品質が高くて、品質のよいものを買う」であった。

図表26 キャッシュレスで支払うことに関する感じ方の違い



**：1%水準で有意

図表27 買物に関する価値観



**：1%水準で有意

以上の結果より、残高や支出の管理がしやすいさは、現金派は現金と回答し、キャッシュレス派はキャッシュレスと回答することがわかった。また、現金派は、現金はその場で支払が完了できることにメリットを感じる一方、キャッシュレスは借金した気になることを懸念点に挙げることがわかった。

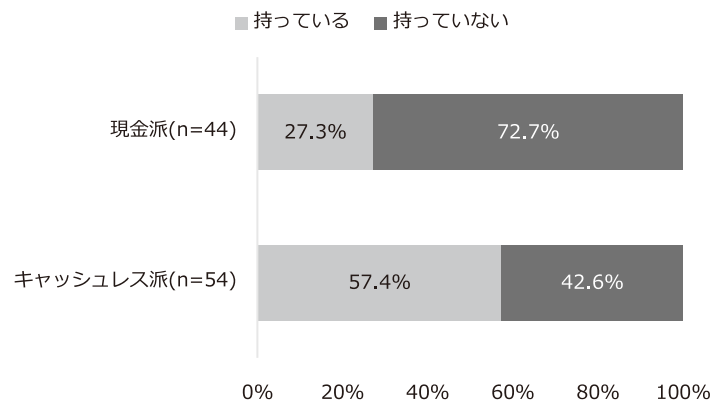
10. 現金派にキャッシュレス利用を促進するには

これまでの文献では、利便性を認識させることがキャッシュレス決済を促進すると論じられてきた。しかし、ヒアリング調査の結果から、現金派はキャッシュレスの利点は認識している一方、現金による管理のメリットを主張する傾向が伺えた。アンケート調査からも、現金は管理がしやすい、その場で支払が完了できるなどのメリットを認識しながら「あえて」現金で支払っている行動が伺えた。一方、PayPayなどのキャッシュレス決済を決して否定をしているわけではなく、「あれば使う」「友人から送金された分は使う」など、消極的ではあるものの、キャッシュレス決済を利用している傾向も見られた。そこで、現金派にキャッシュレス利用を促進させるための施策を講じる。

第1の施策としては、デビットカードの利用促進が挙げられる。前述したように、現金派は、現金はその場で支払が完了できることにメリットを感じる一方、キャッシュレスは借金した気になることを懸念点に挙げていた。その一方で、代金が支払と同時に銀行口座から引き落としされるデビットカードの所有率が、キャッシュレス派より低いことが確認された（図表28）。

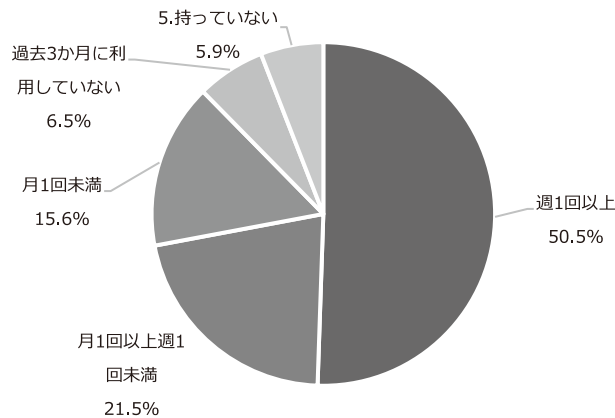
ヒアリング調査において、デビットカードを主に活用している回答者は、デビットカードは現金とカードの良いところ取りである、保守的な性格のため借金はしたくないのでクレジットカードではなくデビットカードを利用している、と説明した。そのため、現金派も安心して利用できるデビットカードの活用を推進することが促進の1つとして挙げられる。

図表28 デビットカードの所有率比較



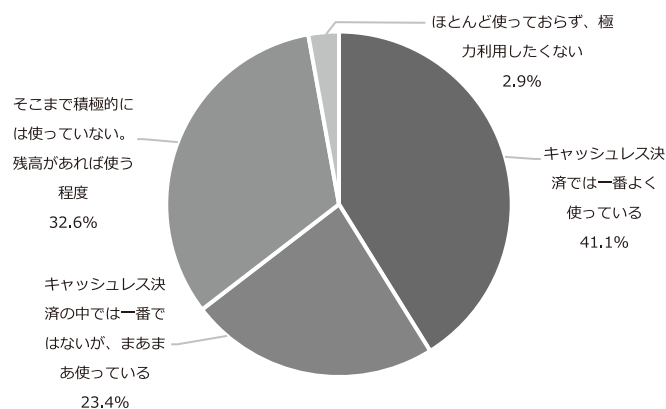
第2に、キャッシュレス決済の口座にお金を振り込み、「あれば使う」状況を生み出すことである。今回はPayPayを例に活用事例を挙げる。PayPayを例にする理由としては、ヒアリング調査でPayPayの所有率が高かったことと、現金派でも友人間の送金などに活用していることが確認できたためである。アンケート調査回答者におけるPayPayの利用状況は図表29のとおりである。週1回以上と回答した割合は、50.5%であった。一方、持っていないと回答した割合は、5.9%であった。

図表29 PayPayの利用状況 (n=186)



PayPay保有者に限定した、キャッシュレス決済の中の位置づけは図表30のとおりである。キャッシュレス決済の中では一番よく使っていると回答した割合は、41.1%であった。

図表30 キャッシュレス決済の中のPayPayの位置づけ (n=175)

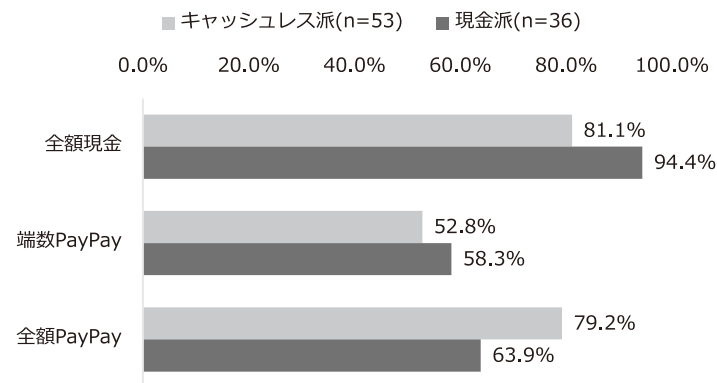


キャッシュレス決済の口座にお金を振り込む例としては、「友人間の送金」「給与口座の振り込み」が考えられる。現金派において、これらの振り込み方法はどの程度ニーズがあるのか、キャッシュレス派と比較する。

① 友人間の送金の活用

友人から送金してもらう場合、「全額現金」「キリのいい分は現金、端数はPay Pay」「全額PayPay」は望ましいか／望ましくないかを質問した。「望ましい・問題ない」と回答した割合を、現金派とキャッシュレス派で比較した。すると、現金派は全額現金を望み、キャッシュレス派は全額PayPayでの送金を希望する傾向が見られた。しかし、現金派でも60%以上的人是全額PayPayでも問題ないと回答していることから、キャッシュレスによる友人間での送金を促すと、現金派でもキャッシュレスを利用する機会が増えるものと考えられる。

図表31 友人からの送金方法の比較



※「望ましい・問題ない」と回答した割合。PayPay所持者に限定した回答

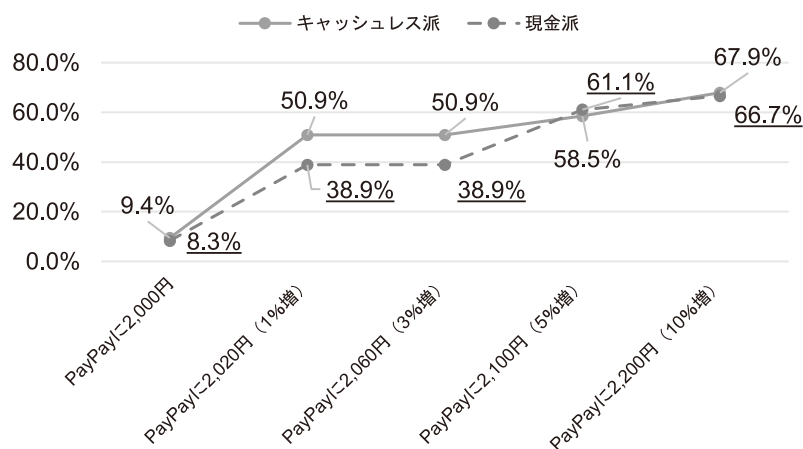
② 賃金のデジタル払いの促進

キャッシュレス決済の普及や送金手段の多様化のニーズに対応するため、労働者が同意した場合には、一部の資金移動業者の口座への賃金支払が認められるようになった²³⁾。そして、PayPay株式会社は資金移動事業者に認定されており、24年11月よりソフトバンクグループ各社以外のPayPayユーザーへの「PayPay 給与受取」を開始した²⁴⁾。

そこで、アルバイト代の一部がPayPayで支払われることを望むか望まないかを質問した。今回はアルバイト代20,000円のうち2,000円分がPayPayで支払われることを望むかどうかを聞き、その後PayPayに一定のインセンティブ（本調査では1%増の2,020円、3%増の2,060円、5%増の2,100円、10%増の2,200円）を支払う場合に、どの程度PayPay支払を受容するか確認し、現金派とキャッシュレス派で比較した。

すると、現金派、キャッシュレス派ともに10%弱が、特にインセンティブがなくとも「現金18,000円、PayPay2,000円」の支払を選択することが確認できた。インセンティブが1%の場合、3%の場合、キャッシュレス派の方が選択する割合が高いが、5%、10%の場合、選択する割合は同程度となった。

図表32 アルバイト代20,000円の支払方法



若年層がキャッシュレス決済の割合が必ずしも高くない要因として、現金の方が管理は楽というメ

リットのほか、使いすぎてしまう、という懸念が挙げられることが、改めて確認できた。しかし、まったくキャッシュレス決済を使わない、というわけではなく、「あれば使う」という消極的な利用姿勢が伺えた。そのため、今回例に挙げたようなデビットカードの利用促進や、自ら振り込まなくともデジタル払いの口座にお金が振り込まれる施策を優遇することが考えられる。

注

- 1) 株式会社S&T PRTIMES 2024年4月29日
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000139312.html>
- 2) みずほ銀行ホームページ
https://www.mizuhobank.co.jp/jcbdebit/introduction/article_05.html
- 3) 日本銀行ホームページ <https://www.boj.or.jp/about/education/oshiete/money/c26.htm>
- 4) World economic forum
<https://www.weforum.org/agenda/2019/05/in-a-cashless-society-vulnerable-citizens-may-end-up-paying-the-highest-price/>
- 5) 一般社団法人キャッシュレス推進協議会 キャッシュレス・ロードマップ 2023 2023年8月
- 6) 日本銀行 情報サービス局「生活意識に関するアンケート調査」(第97回<2024年3月調査>)
- 7) RIKIS BANK Payment habits of Swedish people <https://www.riksbank.se/en-gb/statistics/statistics-on-payments-banknotes-and-coins/payment-patterns/>
- 8) 7に同じ
- 9) 7に同じ
- 10) Swish ホームページ <https://www.swish.nu/>
- 11) Young Adults' Attitude Towards Digital Payment Methods and Financial Responsibility Conference Paper・December 2023
- 12) 4に同じ
- 13) 財務省 デジタル時代のイノベーションに関する研究会報告書
https://www.mof.go.jp/pri/research/conference/fy2018/digital2018_report.htm
- 14) 13に同じ
- 15) 消費者庁新未来創造戦略本部国際消費者政策研究センター「令和2年度大学生のキャッシュレス決済に関する調査・分析報告書」令和3年6月
- 16) 6に同じ
- 17) 7に同じ
- 18) 韓国銀行 2016年 “Action Plan for ‘Coinless Society’”
- 19) Reuters Nearly 20% of Japan households using e-money but cash still king November 18, <https://www.reuters.com/article/us-japan-economy-boj-idUSKBN1XS0Q1/>
- 20) 流通経済研究所 2020年3月5日 <https://www.dei.or.jp/aboutdei/column/20200305>
- 21) 経済産業省 商務・サービスグループ 消費者実態調査の分析結果 2022年12月20日
- 22) 太宰(2020)による「消費価値観：超高関心層」による回答割合の高い項目を調査項目とした。
- 23) 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/001065931.pdf>
- 24) PayPay株式会社プレスリリース 24年11月5日
<https://about.paypay.ne.jp/pr/20241105/01/>

参考文献

- 上杉志朗. (2023, October). 地方の大学生のキャッシュレス決済利用状況について. In 情報経営 日本情報経営学会第86回全国大会 (pp. 117-120). 日本情報経営学会
- 翁百合 (2019)「キャッシュレス社会に向けて何をすべきか—消費者の決済実態分析を踏まえて—」, NIRA オピニオンペーパー 42
- 翁百合 (2024) 大きく進捗したキャッシュレス決済 NIRA オピニオンペーパー 75
- 尾室拓史. (2023). キャッシュレス決済利用に伴う支払傾向の変化—セルフコントロール能力およびキャッシュレス決済利用経験がキャッシュレス決済利用時の支払意思額に与える影響—. 日本家政学会誌, 74 (8), 468-477
- 経済産業省 (2022). キャッシュレス決済の中小店舗への更なる普及促進に向けた環境整備検討会とりまとめ
- 経済産業省 (2023). キャッシュレスの将来像に関する検討会とりまとめ
- 佐藤広大, & 江夏あかね. (2019). 地方公共団体によるキャッシュレス決済への挑戦：韓国と日本における取り組み. 野村資本市場クォーターリー = Nomura capital markets quarterly, 23(1), 103-114
- 高澤美有紀, & 大森健吾. 2019. キャッシュレス決済の動向 国立国会図書館 調査と情報—ISSUE BRIEF No. 1066 (2019. 9.26)
- 竹村敏彦. (2021). キャッシュレス決済サービスの利用意図に影響を与える要因分析. 城西大学大学院研究年報, 34, 81-103
- 太宰潮. (2020). キャッシュレス利用者の特性：サブスクリプションや経済圏の視点を踏まえて. 福岡大学商学論叢, 65 (1), 113-149
- 鶴沢真. (2021). スマートフォンによるキャッシュレス決済の利用要因. 現代ビジネス研究所紀要, 6
- 羽森直子. (2023). スウェーデンにおける中央銀行デジタル通貨発行に向けての取り組み. 流通科学大学論集—経済・情報・政策編—第31巻第2号, 81-94
- 三井住友信託銀行 (2020) コロナ禍が促進したキャッシュレス化 三井住友信託銀行 調査月報2020年9月号
- 元木秀章. (2019). キャッシュレス社会の進展と対応に向けた課題. 徳島経済, 103, 123-148
- 安川幸治, & 柳原佐智子. (2021, October). 社会科学系学生のFinTech教育:キャッシュレス決済の視点から. In 情報経営 日本情報経営学会第82回全国大会 (pp. 105-108). 日本情報経営学会
- 山本正行. (2022). 多様化・重層化するキャッシュレス決済 (第1回) キャッシュレス決済の基礎知識. 国民生活. ウェブ版：消費者問題をよむ・しる・かんがえる/国民生活センター 編, (118), 21-24
- Bergan, M., Guibourg, G., & Segendorf, B. (2008). Card and cash payments from social perspective. Sveriges Riksbank Economic Review, 2, 42.
- Chang, WL., Chen, LM. & Hashimoto, T. (2021) "Cashless Japan: Unlocking Influential Risk on Mobile Payment Service.", Information Systems Frontiers
- Levitin, A. J. (2018). Pandora's digital box: the promise and peris of digital wallets. University of Pennsylvania Law Review. 166(2), 305-376.
- Mukhopadhyay, B. (2016). Understanding cashless payments in India. Financial Innovation, 2, 1-26.
- Ng, D., Kauffman, R. J., Griffin, P., & Hedman, J. (2021). Can we classify cashless payment solution implementations at the country level?. Electronic commerce research and applications, 46, 101018.
- Noman, M., Maydybura, A., Channa, K. A., Wong, W. K., & Chang, B. H. (2023). Impact of cashless bank payments

- on economic growth: Evidence from G7 countries. *Advances in Decision Sciences*, 27(1), 0_1–20.
- Runnemark, E., Hedman, J. and Xiao, X. (2015)“Do consumers pay more using debit cards than cash?” *Electronic Commerce Research and Applications*, 14(5), 285–291
- Soman, D. (2003). The effect of payment transparency on consumption: Quasi-experiments from the field. *Marketing letters*, 14, 173–183.

(やの なおゆき)

Intention to use cashless payments among young people in Japan

Naoyuki YANO

Abstract

Cashless payments in Japan are on the rise, but remain at a low level compared to other countries. One reason for this is that young people, who are supposed to be digital natives, have not made much progress in adopting cashless payments. When young people who prefer cash were interviewed, it was apparent that while they were aware of the convenience of cashless payments, they had the advantage of cash being easier to manage spending, and were concerned about overspending with cashless payments. On the other hand, there was also a reluctant attitude towards using cashless payments, with people saying, "I'll use it if there's money in my cashless payment account." The questionnaire survey also showed that some cash users were willing to pay a certain amount of their part-time job wages digitally, so it may be necessary to strengthen measures to allow money to be transferred to digital payment accounts without the user having to transfer the money themselves.

Keywords: cashless payment, debit card, code payment, transfer between friends, digital payment